

令和 6 年度の復興基金事業の概要

令和 7 年 3 月

沖縄県



Ⅰ. 監修会議とワーキング部会の構成と役割

- ・ 監修会議では、学識有識者 6 人のほか、関係機関を協力委員として配置。【設置要綱 第3条】
- ・ 監修会議は、製作及び監修方針をとりまとめる場であり、各分野の監修に係る詳細事項については、ワーキング部会（以下「WG部会」という。）にて検討する。【設置要綱 第2条及び第6条】
- ・ 各分野のWG部会には、技術継承を図るため、若手を 1 名程度含める。

首里城復興基金事業 監修会議 【年 2 回程度開催】

製作及び監修方針をとりまとめる場
(1) 製作体制及び製作作業工程に関すること。
(2) 監修方法及び監修頻度に関すること。

委員	歴史(琉球史)	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館 館長（委員長）
	歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	彫刻・焼物	西村 貞雄	琉球大学 名誉教授
	彫刻・焼物	波多野 泉	沖縄県立芸術大学 学長
	染 織	寺田 貴子	活水女子大学 特別専任教授
	瓦 類	与座 範弘	元 沖縄県工業技術センター 所長

※協力委員 6 人（県・国の関係部局より）

各分野の WG部会

彫刻WG部会

大龍柱・御差床など

西村 貞雄
波多野 泉
砂川 泰彦★

歴史系委員 1 名以上
製作技術者の代表

焼物WG部会

龍頭棟飾・鬼瓦

西村 貞雄
波多野 泉
森 達也★
山田 聡★
歴史系委員 1 名以上
製作技術者の代表

染織WG部会

垂飾（瓔珞）

寺田 貴子
早瀬 千明★

歴史系委員 1 名以上
製作技術者の代表

瓦類WG部会

屋根瓦・磚など

与座 範弘
花城 可英★

歴史系委員 1 名以上
製作技術者の代表

【年 2 回程度＋適宜開催】

製作や監修方法等の詳細検討

分野別の専門家（2～3人）、歴史系委員 1 人以上、製作技術者の代表で構成

※WG部会のみ参加の学識者は；

2. 首里城復興基金事業 WG 部会 監修委員（令和6年度～）

※WG部会のみ参加の学識者は★

彫刻WG部会

専門分野	名前	所属
彫刻・焼物	西村 貞雄	琉球大学 名誉教授
彫刻・焼物	波多野 泉	沖縄県立芸術大学 学長
彫刻	砂川 泰彦★	沖縄県立芸術大学 教授
歴史(琉球史)	田名 真之	前 沖縄県立博物館・美術館 館長
歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授

焼物WG部会

専門分野	名前	所属
彫刻・焼物	西村 貞雄	琉球大学 名誉教授
彫刻・焼物	波多野 泉	沖縄県立芸術大学 学長
焼物	森 達也★	沖縄県立芸術大学 副学長
焼物	山田 聡★	沖縄県立芸術大学 教授
歴史(琉球史)	田名 真之	前 沖縄県立博物館・美術館 館長
歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授

染織WG部会

専門分野	名前	所属
染織	寺田 貴子	活水女子大学 特別専任教授
金工	早瀬 千明★	護佐丸歴史資料図書館 学芸員
歴史(琉球史)	田名 真之	前 沖縄県立博物館・美術館 館長
歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授

瓦類WG部会

専門分野	名前	所属
瓦類	与座 範弘	元 沖縄県工業技術センター 所長
瓦類	花城 可英★	沖縄県工業技術センター 主任研究員
歴史(琉球史)	田名 真之	前 沖縄県立博物館・美術館 館長
歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授

OKINAWA
よみがえれ！首里城

[illegible]

月	会議	議論テーマ
9月19日	第1回 監修会議	・ 監修会議及びワーキング部会の進め方の確認 ・ 製作にかかる記録等の活用について ・ 材料調達の進捗についての確認
5月～2月	各ワーキング部会	・ 彫刻、焼物、瓦類、染織の各分野の製作を対象に、製作・監修方針の詳細を検討
3月13日	第2回 監修会議	・ 各ワーキング部会の検討動向、製作・監修事項の報告 ・ 次年度に向けた検討事項の確認 ・ 今回製作された記録、関係資料の活用について

4. 本会議における検討内容

- 令和6年度の監修会議等の検討事項は、以下のとおり。

1. 製作・監修【WG部会】

- 製作作業期間を勘案の上、今年度に必要となる製作作業及びその監修を行う。
- 監修については、各WG部会にて対応。

➤WG部会の検討状況にて報告（資料2～5参照）

2. 材料調達【監修会議では報告】

- 沖縄県首里城復興基金では、製作物の材料とあわせ、木材及び石材等の調達を行う。監修会議では、その状況を適宜報告する。

➤令和6年度の調達状況を報告（資料6参照）

3. 次世代への継承【監修会議、WG部会】

- 本事業が将来の技術継承に資するよう、製作過程の記録撮影（動画・静止画）等を行う他、製作動向に関する情報発信の状況を報告する。
- 製作時に準備された下絵や石膏原型等を含め、製作記録の情報発信及び活用・保管方法について検討を行う。

➤現時点の製作記録の状況を踏まえ、資料の保存・活用について意見交換（資料7参照）

5. 令和復元における監修会議での製作体制(R6.9月時点)

- 各WG部会で検討・確認した監修会議の製作体制は以下のとおりで、各チームの情報共有・連携を図る。
- 製作体制への参加が限られるため、技術継承の裾野を広げるためにも、製作記録の活用を含めて、情報発信等については別途検討する。

